

広報

ふじがわ

10・11月

41.11.15

No. 77

町の現況

面積	31.09Km ²
人口	41,111人現在
男	7,251人
女	7,416人
世帯数	3,192世帯
町議員数	16人

広域行政と町村合併

最近、広域行政とか、広域都市づくりということが各地方自治体で大きく取りあげられています。

経済の急激な発展は、わたくしたちの生活にも大きな変化をもたらす、テレビなど家庭電化製品の普及や自動車の増加、住宅事情の好転などで住民の生活と文化は大きな向上と変化を見るに至りました。こうした社会情勢の発達と住民生活の向上によって、わたくしたちの生活範囲は拡大され、さらに交通機関の発達や、道路、通信施設等の整備進歩によって、むしろ市町村間の距離はいつそう縮まってきたともいえます。

地方行政は、住民の生活安定と福祉の向上を目的としておりますが、今日のように生活水準の高くなった現在では、財政力の低い町村では地域住民に対するサービスや生活環境の整備など、もともと住民が希望している行政は期待できなくなつてつあります。しかも今日の自治体行政の実態は「三割自治」といわれ、国や県の援助がなければ市町村の財政運営は困難となつてきています。とくに人件費の支出は毎年のように増大し町税収入で人件費をまかないきれない市町村が多数にのぼつています。

このような地方自治の背景に立って考えるとき、まず市町村財政を強固にすることが必要になってきます。市町村で行なわなければならない義務的な行政……戸籍、徴税、義務教育、消防、衛生、清掃、住民福祉などをはじめ、道路住宅、上下水道、河川、港湾の維持整備、土地改良などの事業は、いずれも地域開発と住民所得の向

真剣に考えよう！

庵原三町の合併

海道路に沿って発達し、岳南、静清地帯の間にあって、東駿河湾工業整備地域の一翼をなっていますが、近く開通される東名高速道路や、国道一号線バイパス、県道富士宮由比線の整備などで、地区の一体性はさらに強まってきました。しかも地区住民の生活も三町の行政区画を越えて交流が行なわれ、古くから同一の生活圏を形成していたともいえます。さらには三町の行政は、共同処理事業として早くから、し尿処理、病院、隔離病舎など広域的に進められ、今や三町がお互いの行政区画を越え、一体となつて行政効果をあげ住民の期待にこたえるための各種施策を推進しています。

庵原三町の現況は、人口、面積共同事業等から推しても、対等合併の素地ができているといわれています。

三町の都市計画を進め、さらに発展させるためにも、住民の生活水準向上のため町村合併をして、お互いの持つものを持ち寄って行政力を結集し、新市町の建設に進むことは是非について、皆で考えるべき時期に入っているのではないかと思います。

市町村合併特例法

との関係

昨年三月二十九日、市町村合併特例法が施行され、国県において

町村合併の問題点

わたくしたちが、町村合併について考えるとき、まず合併すればどんな利益があるか、またどんな心配される面があるかということが問題となつてきます。

(利点)

一般的には

- ①行政基盤が強化されるので行政水準が向上し、担税力がふえる
- ②機構の統合、集中管理によって行政経費が節減され、また組織

の統合で二重投資がなくなる。

③起債能力が拡大するので、国や県の大規模事業を受入れることにより産業の振興や地域の開発が進み、住民所得が増加する。

④市になれば対外的信用度が高まり、商工業法人などの業者にも利益となり、福祉事務所などが設けられるので、市独自の行政が期待でき、住民の福祉は向上する。

⑤住民多年の懸案であった高校の設置も、新市設置の要件として県の積極的推進が期待され、また上の利点の外

⑥財政面については、今まで県に吸いあげられていた蒲原町の日軽の大規模債却資産税年間約三千万円が、将来にわたって新市へ還元される。

⑦由比町の交付税(富士川町・蒲原町は不交付団体)は、合併すれば当然解消される性質のものであるが、特例により合併後六カ年間は交付が保障される。

坪内消防団長 県知事表彰を受く

県知事表彰を受く

富士川町消防団長、坪内佐吉さん(六三歳)は、長年の消防関係の功績が認められ、県表彰条例にもとずき、治安維持、水火災防護功労者として、十一月三日の文化の日に県知事表彰を受けました。

このことは、一個人の表彰というだけでなく、富士川町消防団の名を全県下に広めたものとして、町住民の生命財産を守る消防団全体の榮譽にもなり、町民各層からも喜びの声が聞かれました。

消防団本部では、このため、同日午後三時より、福祉センターに町内各代表者一三五人を招き、盛大に表彰祝賀会を開催しました。

出席した方たちは、それぞれ坪内佐吉さんの長年の苦勞に感謝してその表彰を心から祝いました。

★坪内佐吉さんの団歴(抜粋)
昭和十九年 富士川町消防団入団
(現在まで二十二年)
昭和二十八年 消防団長に就任
(現在まで十三ヶ年)

(賞)
昭和二十八年に県消防協会長より特別功労章を授与されたのを始め、今までに各種の賞を受けている。

写真下：富士川町消防団長の正装姿の坪内佐吉さん(自宅で)



(心配される面)

①市役所が遠くなって不便となりはしないか。

②末端までに従来のようなキメの細かい行政が期待できなくなり、はしないか。

町村合併の進め方

以上、町村合併についての問題点を挙げてみました。町村合併は、あくまでも関係町住民一人一人の意志にもとずいて決まるものです。

健康で、明るく住みよい豊かな町づくりを目標にした庵原地区将来の発展について関係町住民が互いに調査研究を重ね合い、町村合併問題について真剣に考えようではありませんか。

庵原地区 合併問題の経過

庵原三町合併については、ここ二、三年来その合併是非の声が聞かれていたところですが、昨年昭和四十年三月二十九日に制定された合併の特例に関する法律とさう

には同年六月、県地方課のすずめを機会に、合併する、しないはとにかく、調査研究を進めてみようという気運が高まり、同年末「庵原地区合併研究連絡協議会」が発足しました。

同協議会構成委員は、各町それぞれ、町長、助役、正副議長、議員の計十名、三町合わせて合計三十名で、さらに総務、行政、建設の三委員会に分けられ、いままでの十ヶ月間、数多くの会合を経て調査研究を続けてきました。

なお、町住民各層、各種団体の代表からなる富士川町だけの合併研究協議会(九十一名)も七月十八日、十月八日の二回にわたり福祉センターで開かれ、いままでの経過の説明が行なわれていました。

十月十三日、蒲原町で開かれた協議会は、実に午前九時より午後五時半までの白熱的な検討の場となり、ついに次のような結論に達しました。

『三町の行政・財産・その他の現況についての調査、研究の段階はすでに完了した。』

法的な裏付けをもつ「庵原地区合併協議会」を急速に設置し、今後積極的、かつ前向きな姿勢で合併についての研究をすすめるべきだ。

このため、三町は、十月十七日の同じ日に、臨時議会をそれぞれ招集、この「庵原地区合併協議会

」設置を決議しました。

これにより、いままでの任意的な「庵原地区合併研究連絡協議会」は解消、研究連絡の文字が除かれ、一歩前進した法的な「庵原地区合併協議会」が誕生しました。

庵原地区合併協議会の富士川町委員名 (敬称略)

中川国兵(町長)・高岡文夫(助役)・石川均(議長)・渡辺忠作(副議長)――以下順不同――森中重雄(議員)・坪内佐吉(同)・佐野義策(同)・若月幾太郎(同)・斎藤六郎(同)・望月亀蔵(同)・池谷孝太郎(学識経験者・前町長)・池上憲(同・区長会長)・斎藤久男(同・商工会長)

町有財産

二千五百万円で売却

――第二小改案のため――

十月十七日の町臨時会で次の財産処分が可決されました。

◎町有林 (25年生立木・土地共)

①南松野 五二・三六九㎡

(五町二反八畝二歩)

②北松野 三九・八六七㎡

(四町〇反二畝〇歩)

◎払下者 野間省一

◎価格 二千五百万円

◎理由 第二小学校危険校舎改築事業費等に充当するため。

納税者の声を！

第13回納税者旬間

今年も「納税者の声を聞く旬間」が十一月十日から十九日までの十日間、全国の税務署で一斉に行なわれます。

この旬間は、今年で十三回目を迎えますが、税金に対する苦情や要望、税務職員との態度や取扱いに対する不満や意見を広く納税者から聞き、税務行政の施策や運営面に反映させようというものです。また、納税者と税務官庁とが相互に理解を深めて、民主的な行政が行なわれるよう親近感をつくり、納税道義を高めようとするものです。

税務署では納税者が、この機会に、税金についての意見や希望をどしどし寄せられるよう希望しています。

旬間中の主な行事

①税務署長が納税者宅を訪問して意見などを聞く。
②「納税者の声を聞く会」などを開催して、広く税務行政についての意見や要望を聞く。
③広く納税者からの意見を聞くため「意見箱」の利用や「税のアンケート」などの募集を行なう。
④税務署の仕事の内容を知ってもらうために、学生婦人層を対象として税務署見学を行なう。
⑤税務職員が作成した税についての図表やグラフ類を署内に展示する。

歩行者

安全教室

全町二十会場実施

全国秋の交通安全運動を機会に当町では初の試みとして各部落に歩行者を対象とした交通安全教室を開き、各方面からその成果が期

待されています。十月十二日より十一月七日までの間、全町二十会場におよそ千七百人を集めて行なわれ、受講者には、「歩行者交通安全帳」がもれなく配付されその自覚がうながされました。

踏切事故に備え

模擬訓練

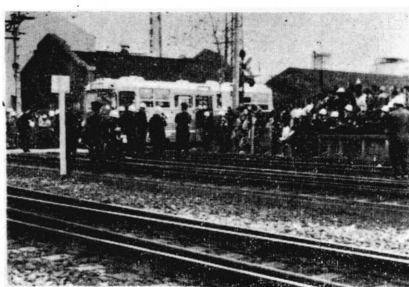
九月から十月にかけて実施された全国秋の交通安全運動に歩調をそろえ当町でも、交通安全対策委員会（中川国兵衛、交通安全協会富士川分会（久保田為雄）交通安全委員連絡会（芦川作太郎）を主軸に各種の行事を実施しました。

その行事の一端として、蒲原、由比町との三町合同訓練が新たな行事として人々の注目を集めました。

十月十七日午前十時、本州岩淵工場西側、日軽踏切で、踏切事故の際の非常訓練が実施され、約七

百人もの三町の関係者、一般町民でにぎわいました。

写真 無気味な鉄路。踏切でのバスの事故という想定で模擬訓練



室野地区に

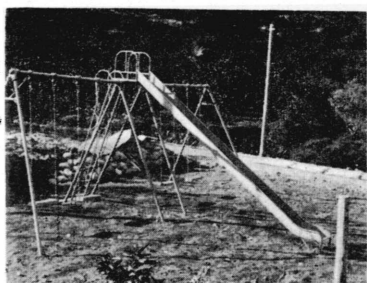
児童遊園地が完成

子どもたちをすこやかに育成する施設の一つとして、児童遊園地があります。

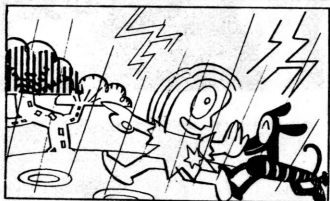
これは、危険な場所から児童を守り、なお施設に恵まれない地域に優先して建設される県の補助事業です。本年度は、山間地である室野地区から要望があつて県の指定を受け、先月完成したものです。敷地二五〇平方メートルは、谷津倉諄吉さん、望月勝正さんの無償提供によるもので、施設された遊具は、箱型ブランコ四台、ブランコ付滑り台一台、二連式シーソー二台に砂場、鉄棒等です。

総額は三万一千六百円で、県費補助金一〇万円が交付され整備されたものです。

写真 クサリブランコ付滑り台



の5 利子太 173

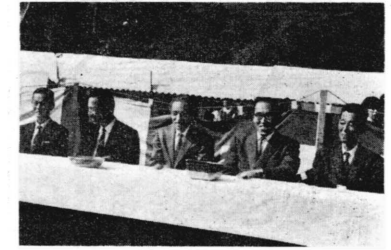


十一月三日の文化祭にバザーを実施した婦人会は、その純益三万八千三百五十九円を町の善意銀行に預託しました。

実施されてから第三回目になりこの間の純益、合計七万余円は、すべて、歳末にかけて、恵まれない人たちに配分されます。このように、バザー券を買われた皆さんの金は、間接的には不幸な人たちの「善意」となっています。

本年度のバザーの収支
売上金 三〇万一千四百八〇円
仕入等 二六万三千一百二一円
利益金 三万八千三百五十九円

昭和41年
文 化 祭
創意・目だつ



第十二回目の当町文化祭は、好天にめぐまれた十一月三日、第一公民館・図書館・園庭・運動場で盛大にそれぞれの行事を行ない、全会場で、およそ延二千人の人たちを集めました。

●展覧会：とくに目につくことは今年に絵画の出品者が増え、質的にも非常に向上したものが出品された。

展覧会の部表彰 (敬称略)
(賞) (種目) (氏名)
町長賞 絵画 太田 昭
議長賞 書 渡辺初代



教育長賞 写真 松下好輝
文協会賞 絵画 佐藤道功
婦人会賞 手芸 佐藤寿々子
文化協会賞 絵画 小永井茂昭
書 花田ふじ子

田中律子
田中好子
手芸 高岡きみ子
井元ひさ子
田中美恵子
写真 鈴木文一郎
石田鉄雄

●園遊会：創意に満ちたものとして苦心の装飾「高瀬舟」が高く評価される。中学校前の堀割に浮かび、帆に駿河の海風を受け、甲州へと出発する姿勢。来年も、このような企画に富んだ出し物が園遊会場を飾るよう希望したい。なお例年、菊の出品が少なかったが今年は数多くの鉢が、訪れる人たちの目を楽しませて、成功していた

●芸能祭：全体的に向上している
出場した各グループに創造意欲が感じられ、単に舞踊、詩吟、など……に終らず、観客の好評を得た今後このような姿勢で進みたいもの。
芸能祭の部表彰 (賞) (種目) (出演者)
町長賞 演劇 舟山心中 文協演劇部
議長賞 詩吟 曾我兄弟 文協吟詠会
教育長賞 演劇 花子 青年学級
文協会賞 舞踊劇 紀之国屋文左衛門 文協舞踊部
婦人会賞 合唱 ともしげ外 小池睦会
文化協会賞 詩吟 山中の月 文協吟詠会
文化協会賞 舞踊 親なしトンボ 婦人会(坂下)
※写真説明
右上：絵画展・水石展の一部、右

端の絵が町長賞を受けた太田昭さん(旭町)制作のもの。
右中：芸能祭・町長賞を受けた創作劇「舟山心中」の一場面。(斎藤博さん作・堺町)
右下：園遊会・第一公民館前の庭で、秋の日を浴び茶の湯を楽しむ人たち。向こうに見えるテントは婦人会バザーの店。
左上：園遊会・中学校前の堀割は甲州との舟運が栄えていたころ、東町の問屋を結び、さらに蒲原町の浜とも結んでいた重要な水路。そのおもかげをしのび再現された高瀬舟。へ先に立つ舟人と同じ人形二人が、右手十メートルほど離れたところで綱を握り引張り上げています。当日の呼び物のひとつ。池谷喜八郎さん(東町)の企画したもの。制作も池谷さん外五人の人の苦心による。こちら側には商工会青年部の店と婦人会バザーのテントが立ち並んでいました

人の流れ

(敬称略)

祝結婚

祝誕生

区名	新 郎	新 婦	旧 姓
宮町	小笠原康雄	和代	佐野
坂下	植松 敏行	三津子	平野
本一	常葉 忍	英代	杉山

祈冥福

区名	氏 名	年 令
本一	加藤 晴美	二
木島	佐藤 惣作	八一
清水	遠藤 小照	六八
南町	西山億次郎	五六
	上野 貞子	五五

転出した人

区名	氏 名	転出先
小山	太田 聰子	吉原市
宮町	望月 敏江	富士市
四十九	関 久子	東京都
相生	丸山・絢子	富士市
大北町	宇佐美テル	山梨県

舟山	花田 典枝	雪夫	長女
宮町	野中 良子	道人	長女
東一	山本 勝保	勝	長男
日の出	鈴木 淳史	基之	長男
新町	森山久美子	一男	長女
東二	芦沢 芳昭	謙吉	二男
上町	大村 正也	賢	二男
舟山	小林 初江	豊	長女
相生	佐藤 肇	正躬	長男
旭町	鈴木 裕美	雅二	長女
幸町	木内佐登子	駿	長女
東二	児玉 浩也	信也	長男
上町	斎藤 理恵	弘文	二女
南町	鈴木 展子	一郎	二女
〃	天野 里美	定雄	長女
〃	望月亜希子	誠一	二女
大北町	宇佐美幸恵	広明	長女
〃	佐野亜紀子	好正	長女
富士見	久保田真司	正治	長男